

雪下ろし助成拡大を

市議会 民生費で8委員質疑

【名寄】市議会予算審査特別委員会(塩田昌彦委員長)は23日、一般会計民生費、衛生費の歳出審査で8委員が質疑した。

奥村英俊委員(市民連合・凜風会)は市が保育士、介護職の市内就業に支度金を給付している緊急対策事業について、介護職の支給額が低いことや、他職種への給付の拡大を求めた。廣嶋淳一

加藤剛士市長は「建て付けの異なる制度としてスタートさせたため、金額にずれがある。市全体の人材確保はかつてあった『なよろで働こう助成』が廃止された検証も含め、今後高橋伸典氏(公明)は「今冬から始まった屋根の雪下ろし助成事業の実績、収入基準で利用できるか層への拡大を求めた。廣嶋淳一

とも・高齢者支援室長は「雪下ろし助成券は126件の申請があった。福祉サービスとして実施しており、新年度も同じ収入基準で進めたい」と理解を求めた。

東川孝義委員(市政クラブ)は「養護老人ホーム施設入所委託の実績を質問。後藤裕子高齢者支援主幹は「市内に養護老人ホームはなく、旭川、士別などに22人が入所している」と説明した。

山崎真由美委員(市民連合・凜風会)は、基幹相談支援事業ほっけの相談実績、新年度の体制を質問。柴野武志社会福祉課主幹は「1月末現在、相談者

200人、相談件数1700件。障害児に関する相談は3分の1程度あり、学校、関係機関と連携し、対応している」と答えた。

大場雅敏市民部参事は「広域施設の供用で内測は受け入れを中止する。臨時職員1人を配置し、浸出水処理施設の稼働、維持管理を行う」と答えた。

熊谷吉正委員(市民連合・凜風会)は、障害者グループホームの整備件数、実態に即した市の補助、防火対策を質問。柴野社会福祉課主幹は「4月までに20棟になる見込み。障害者のニーズに合わせ民間施設と連携し、整備を進めていく。スプリングラーが必要なグループホームは4棟だが、今月ですべて設置が終わる」と答えた。

川村幸栄委員(共産)は「1月末現在、相談者」

(吉永雅人)